

# 地域貢献施設紹介

緑に囲まれて落ち着いた雰囲気のある東京家政大学には、附属幼稚園や子育て支援施設が複数あります。キャンパス内で地域に住む親と子どもたちの姿をよく見かけるのも本学の特徴です。子育て世代を身近に感じ、子どもと接する機会が多い環境は、学生たちの刺激にもなっています。

## 狭山 かせい森のクリニック

3号館2階

平成26(2014)年10月に緑豊かな狭山キャンパス内に開設し、小児・アレルギー科と小児神経内科(発達障がい)の2科体制で始まり、令和元(2019)年に産後ケアサロンと内科・循環器内科を併設、さらに令和2(2020)年に訪問看護部門を併設し、現在に至っています。クリニックでの診療・産後ケア部門・訪問看護部門いずれも、近隣自治体等との連携など地域医療への貢献だけでなく、見学実習など学生教育の場として学修を深める貴重な機会となっています。



健康保育見学実習

### I. クリニック

診療時間：月・火 午後のみ ※科により曜日・時間が異なります。

小児・アレルギー科：丁寧な説明を主とし、食物アレルギー負荷試験等を行っています。

小児・神経内科：昨今話題の「気になる子(神経発達症群)」の相談外来を行ない、教育センターや保健所、学校、保育施設等からの紹介、さらには関東地方全域からの受診があります。

内科・循環器内科：循環器疾患を中心に腎臓疾患や糖尿病等の診療および職員・学生の健診後の精査等で健康管理の役割を担っています。



### II. 産後ケア部門(かせい森の産後ケアサロン)

営業時間：月・火 9:00~12:30 / 水~金 9:00~16:30

産後の母親の身体的回復と心理的な安定を図り、健やかにその人らしく育児ができるよう、産後ケア事業に取り組んでいます。ベテラン助産師と母性看護学・助産学担当教員が育児や母子の健康の相談に応じ、アドバイスや健診、ケアを実施しています。木々に囲まれた休憩室ではゆっくり休むことができます。また看護学生の実習施設でもあり、看護教育評価では社会貢献と教育の両立について高い評価を得ています。



### III. 訪問看護部門

営業時間：平日 9:30~16:30

地域の療養生活支援として、介護・医療保険の制約にとらわれずに在宅ケアサービスを提供できる希少な自費訪問看護部門として、利用者の方々のニーズに合わせて訪問看護を行っています。サービスを通じて地域との連携や交流、学生教育や研究の場となれることをめざしています。



## 狭山 かせい森の放課後等デイサービス つくし

セミナー棟横

平成28(2016)年4月狭山キャンパス内に、全国でも数少ない大学の附属機関として設置されました。狭山キャンパス内にある「かせい森のクリニック」の小児神経内科と連携し、手厚いサポート体制を整えています。ここでは、軽度発達障がいの児童を対象に好きなこと、得意な活動に参加し、たくさん褒めることによって、自己肯定感を高めることを自立の中核において活動しています。

指導者は、小学校等で長年に渡り教職に就いていた元教員が務めています。施設での活動は、運動、音楽、絵画造形から好きなコースを児童が自ら選び、指導者がその活動を見守り褒めるといふ、きわめてシンプルなもの。昨年度の狭山緑苑祭では、音楽や絵画造形を選択する子どもたちが発表を行うことができました。子どもたちは日頃の活動の成果を発揮でき、大きな自信となりました。

つくしは、学生の学びの場でもあります。ここで行われている活動に触れ、学ぶことは、将来、特別支援教育や保育等の現場に出た時の大きな力になると考え、ボランティアや実習などを積極的に受け入れています。



つくしHP



学生と児童の関わり

### 【子ども支援学部の学生の声】

- この施設は、褒めることに重きを置いており、児童一人ひとりの能力を引き出す積極的な姿勢に施設の明るい印象を持ちました。
- 幼稚園教諭をしている母が、発達障がいのある子どもに対応できる人が少なくなっていると言っていました。大学生のうちから発達障がい児と関わる機会があることは、今後大いに役立つと思えました。



音楽サークルと児童の合同発表

## 板橋 森のサロン 板橋区地域子育て支援拠点事業

1号館2階

森のサロンは板橋区地域子育て支援拠点事業の委託を受けて、ヒューマンライフ支援センターが運営する子育てひろばです。

0~3歳のお子さんを持つご家庭を対象に、月~金曜日の週5日、10:00~16:00(12:00~13:00 close)の間、『あそびのひろば』を開催しています。ひろばの中では、子育て相談や子育て情報の提供、子育てに関するイベントや講座の実施と共に、大学の豊かな環境を活かしながら、ミニ菜園や草花あそびなど、自然や食につながる体験やあそびも取り入れています。

その他にも、月に1回、主に土曜日に実施している『森のアトリエ』では草花あそび、クラフト、造形、ワークショップなど、季節ごとにさまざまなテーマであそびの提案をしています。こちらは2,3歳の親子10~15組を対象に申込制で行っており、家族で参加できます。



学生による読み聞かせ



森のサロンHP



あそびのひろば



草花あそび

大学独自の事業としては、月に1回、水曜の午後にリフレッシュ保育(預り保育)を行っており、大変好評です。また学生ボランティアの募集や、卒業研究における調査、モニタリング等の協力も学科を問わず受け入れています。

さらに学生がおもちゃの制作や環境設定、アートワークショップを企画・実施し、報告冊子を作成する「学生がつくるサロンプロジェクト」は今年で10年目を迎えます。親子とのふれあいを通して、子育ての“今”を知り、生きた学びが得られることも森のサロンの特色のひとつです。興味のある方はぜひ、森のサロンまでお問合せください。

## 板橋 児童発達支援事業所 わかくさ

120周年記念館5階

発達が気になるお子さんが、幼稚園や保育園と併用しながら通室し、療育を行う施設が東京家政大学内にあります。昭和41(1966)年に児童学科の跡見一子教授が学生を募り、「わかくさグループ」として、集団治療室で障がい児の保育を開始したのがわかくさの始まりで57年という長い歴史があります。令和2(2020)年7月に東京都から認可を受け、「児童発達支援事業所わかくさ」として新たにスタートしました。

わかくさの特徴は、年長児まで保護者と一緒に療育を行い、さまざまな遊びを提供し、経験を広げていながら持っている力を引き出し、大人も子どもと共に育ちあう場所となっています。

わかくさのモットーは「楽しもう!!」です。自ら活動に取り組

み楽しむことで、その活動が大好きになり、何回もやりたくなり、繰り返すことで力になっていきます。そんな、子どもたちが大好きになるような楽しい活動をたくさん提供していきたいと思っています。

また、大学内に児童発達支援事業所があるのは関東地方でも東京家政大学のみです。ここで行われている一人ひとりに合わせた療育(保育)に触れ学ぶことは、子どもについて学んでいる学科の学生が、将来、現場に出た時、大きな力となると考えています。見学やボランティアなどを積極的に受け入れています。



わかくさHP



夏まつりでのコマ

児童学科の学生がボランティアでたこ焼き屋さんを担当。療育のコマを覗く貴重な体験ができる。



リハビリテーション学科実習

脳に刺激を与える「タオルぶんこ」は、子ども達が大好きな遊び。子どもの反応を直にみることで、児童発達支援の実際を体験できる。